
命の音

ミクロン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

命の音

【Nコード】

N1957Z

【作者名】

ミクロン

【あらすじ】

白血病の再発。

けど、それでまた会えた。

私に命の音を教えてくれた大切な人に。

最後まで一緒にいたい。

例え、いなくなってしまうても。

再発と再会

皆さんにはちゃんと命の音が聞こえていますか？私には聞こえていません。小さな小さな命の音が。

12月24日。

未熟児で生まれた私は、

美しい羽と書いて、

「美羽」と名付けられた。

未熟児といっても、1才になる頃には普通の子と同じように走って遊んでいた。だから、誰も想像しなかったんだ。
私が白血病にかかるなんて。

美羽「お母さん、行ってくるね」

今日から高校2年生。

1番遊べる時期だ。

先輩も怖くなくなったし、スカート短くして、校則にひっかからない程度にメイクして。

新しいクラス、新しい先生、新しい友達。

私は凄くワクワクしていた。

なのに。

目の前が真っ暗になった。
気づくと、私の手を握ったお母さんの姿。

病院？

母「良かった〜美羽わかる？病院よ。病院。」

どうやら、登校中に倒れたらしい。

そして、私は悟った。

再発したんだと。

そして、私が悟ったとおり先生から言われた言葉は、

「再発です。」

2回目だ。

私の白血病が再発した。

小3の冬だった。

誕生日前日にひどい頭痛、吐き気に襲われた私は救急車で運ばれた。そして、医師から言われた言葉が、

「白血病です」

父も母も信じられず、何度も何度も医師に確認したらしい。そりゃそうだよな。白血病って、へたしたら死んじゃうんだから。

けど、その時は輸血がピッタリ合って私は助かった。父と母は隠してるつもりかもしれないけど、私は知ってる。

再発したら、治る確率は低いって先生から言われてる事を。

私はもうすぐ死ぬ。
そうでしょ？

そう言いたかったけど、言えなかった。だって、見ても何もできな

い父と母が1番辛いと思ったから。

こうして、私の2度目の闘病生活が始まった。

せっかく楽しみにしてた高校2年生をまさか、病院学級で迎えるとは…。

「はじめまして。竹宮美羽です。高校2年生です。よろしくお願いします。」

パチパチパチ
少ない拍手。

ここには、高校1年〜3年までの生徒が7人。それぞれ違う病気と闘っている。

「じゃあ、今日はプリント配るからこの問題やってみてね。」

みんなが一斉にスタートした。
なのに私は…

シャープペン忘れた。

その時、隣の席の男の子が私の机にシャープペンを置いて言った。

「また忘れたの？貸してあげるよ。」

また？

初対面のはずなのに、妙に懐かしさがあったこの男の子。どっかで会った？でも、また忘れたって…どういうこと？

7

そんな事を考えてたら、
男の子が

「覚えてないのかあゝ。陸だよ。小3の時もここで一緒に勉強したじゃん。ひどいなあ美羽ちゃんは…。命の音。これ言ったら思い出してくれる？」

私はその言葉を聞いて、やっと思い出すことができた。

私に強さをくれた

私に負けない気持ちくれた

私に命の音を教えてくれた

大切な人だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1957z/>

命の音

2011年12月7日00時56分発行